

## 宮清めの神楽

『遠山霜月祭 上村編』(上村遠山霜月祭保存会2008)より引用、加工

(オモテ)

(アト)

清めする 惣谷川の ヤンヤーハーハ 滝の水 滝の水 落ちて清まれ ヤンヤーハーハ 七滝の水  
七滝や 八滝の水を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 御座清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

津の国の 亀井の水を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 社頭清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

諏訪の池 湖水の水を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 注連清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

バシャグラヤ バンジの水を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 宮清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

伊勢の国 二見の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 火床清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

伊豆の国 三島の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 釜清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

陸奥の国 塩釜の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 井戸清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浜や 八浜の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 門清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浦や八浦の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 庭清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浜や 八浜の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 森清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浦や八浦の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 道清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浜や 八浜の汐を ヤンヤーハーハ むすび上げ

むすび上げ 鳥居清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

きたなきを 清く清しと ヤンヤーハーハ 清むには

清むには 三浦の汐に ヤンヤーハーハ 七滝の水

袂いして さし出て見れば ヤンヤーハーハ 冬の空

冬の空 くもりし月も ヤンヤーハーハ はるるが如し

※ 青字の二首は神帳の際は読まない

# 酒女引神楽

『遠山霜月祭 上村編』(上村遠山霜月祭保存会 2008)より引用、加工

(オモテ)

(アト)

白金や 黄金の御戸を ヤンヤーハーハ 押開き 押開き 神現れて ヤンヤーハーハ 禰宜を召される  
伊勢の国 天の岩戸を ヤンヤーハーハ 押開き 押開き 神現れて ヤンヤーハーハ 化粧食される  
東山小松 かきわけ ヤンヤーハーハ 出る月  
出る月 西へはやらで ヤンヤーハーハ ここでしようずる  
伊勢の国 陽田が原に ヤンヤーハーハ 食む鹿は  
食む鹿は 角をならべて ヤンヤーハーハ ござれしようずる  
熊野山 切幣のおおじ ヤンヤーハーハ なぎの葉を  
なぎの葉を かかせにかけて ヤンヤーハーハ ござれしようずる  
諏訪の池 水底照らす ヤンヤーハーハ 小玉石  
小玉石 手にはとれども ヤンヤーハーハ 袖はぬらさじ  
冬来ると 誰かや告ぐらん ヤンヤーハーハ 北国の  
北国の しぐれの森の ヤンヤーハーハ 禰宜がしようずる  
打ちならず ごすいの鐘に ヤンヤーハーハ 夢さめて  
夢さめて 阿吽の二字を ヤンヤーハーハ きくぞうれしき  
すずやかに 吹くなる笛の ヤンヤーハーハ 音のよさ  
音のよさよ いかな大社も ヤンヤーハーハ うれしかるらん  
火を切りて 水を生ずる ヤンヤーハーハ 誰もよし  
誰もよし 皆清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ  
このしきならしは 誰かやしようずる ヤンヤーハーハ 伊勢の国  
伊勢の国 陽田の森の ヤンヤーハーハ 禰宜がしようずる  
この切りはやしは 誰かやしようずる ヤンヤーハーハ 尾張なる  
尾張なる 熱田の森の ヤンヤーハーハ 禰宜がしようずる  
この舞いはやしは 誰かしようずる ヤンヤーハーハ 信濃なる  
信濃なる 八幡の森の ヤンヤーハーハ 巫女がしようずる  
(神々の名 ※1) の まします道を ヤンヤーハーハ 清むには  
清むには 三浦の汐に ヤンヤーハーハ 七滝の水

〈※1 神々の名〉

- |                                  |                 |                  |
|----------------------------------|-----------------|------------------|
| 一 梵天帝釈                           | 一 日光月光          | 一 天神七代 地神五代 天皇歴代 |
| 一 正八幡宮                           | 一 五郎ノ姫宮 八王神     | 一 瀬戸神様 若宮様 守屋大神  |
| 一 源王大神 政王大神 両八幡大神 住吉明神 日吉明神      | 一の宮 淀の明神        |                  |
| 一 津島神社 鹿島神社 池大明神                 | 一 諏訪大明神         | 一 八乙女様           |
| 一 金毘羅神社 秋葉神社 浅間神社 神明様 明神様 おしゃぐり様 |                 |                  |
| 一 山の神残らず 水神残らず                   | 一 天神残らず 地の神残らず  |                  |
| 一 的場稻荷 横栗山稻荷 小嵐稻荷 稻荷は残らず         |                 |                  |
| 一 中郷八幡 程野八幡 下栗十五社 村社は残らず         | 一 此の宮残らず 末社も残らず |                  |
| 一 日本大小神祇残らず                      | 一 四面様           | 一 宮天伯 富士天伯       |

〈※1〉へ 織絵の御座に ヤンヤーハーハ 綾をかけ  
綾をかけ 錦をしきて ヤンヤーハーハ ござれしょうずる  
火を切りて 水を生ずる ヤンヤーハーハ 誰もよし  
誰もよし 皆清まれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ  
酒女や酒女 清浄のお酒女を ヤンヤーハーハ ひくやひく  
ひくやひく 七瓶も八瓶 ヤンヤーハーハ

〈※1〉へ 清浄のお酒女を ヤンヤーハーハ ひくやひく  
ひくやひく 七瓶も八瓶 ヤンヤーハーハ

〈※1〉のえまゆまします ヤンヤーハーハ 大空へ  
大空へ 粕毛の駒に ヤンヤーハーハ 手綱よりかけ  
※青字は宵祭のみ、本祭はつかない

〈※1〉の ふみならしたる ヤンヤーハーハ  
庭なれば 庭なれば 悪魔はよらず ヤンヤーハーハ  
春は花 夏は橘 ヤンヤーハーハ 秋もみじ  
秋もみじいつもたえせぬ ヤンヤーハーハ 花の御社  
峯は雪 ほなかは霰 ヤンヤーハーハ 里は雨  
里は雨 落つれば同じ ヤンヤーハーハ 谷川の水  
喜びに鳴る滝川を ヤンヤーハーハ 渡りしに  
渡りしに いかな大社も ヤンヤーハーハ うれしがるらん  
うれしさに とび出て見れば ヤンヤーハーハ 西の海  
西の海 汐のさすまに ヤンヤーハーハ とびや出でます

# 釜祓神楽

『遠山霜月祭 上村編』(上村遠山霜月祭保存会 2008)より引用、一部変更

(オモテ)

清めする 惣谷川の ヤンヤーハーハ 滝の水

滝の水 落ちて清まれ ヤンヤーハーハ 七滝の水

七滝や八滝の水を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 御座きよまれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

七浦や 八浦の塩を ヤンヤーハーハ 汲み上げて

汲み上げて 御座きよまれと ヤンヤーハーハ 祝いそめきよ

この火床は 何国の火床よ ヤンヤーハーハ 岩こえて

岩こえて おお岩こえて ヤンヤーハーハ

この竈柱は 何国の柱な ヤンヤーハーハ 山こえて

山こえて おお山こえて ヤンヤーハーハ

この竈土は 何国の土とよ ヤンヤーハーハ くねこえて く

ねこえて おお谷こえて ヤンヤーハーハ

このすき薫は 何国の薫とよ ヤンヤーハーハ 里こえて

里こえて おお里こえて ヤンヤーハーハ

この黒釜白釜は 何国の釜とよ ヤンヤーハーハ 国こえて

国こえて おお国こえて ヤンヤーハーハ

この水は 何国の水とよ ヤンヤーハーハ 滝こえて

滝こえて おお滝こえて ヤンヤーハーハ

この白桶白檜杓は 何国の柄杓な ヤンヤーハーハ 山こえて

山こえて おお山こえて ヤンヤーハーハ

この釜蓋は 何国の蓋とよ ヤンヤーハーハ 山こえて

山こえて おお山こえて ヤンヤーハーハ

この湯たぶさは 何国のたぶさよ ヤンヤーハーハ くねこえて

くねこえて おおくねこえて ヤンヤーハーハ

この八丁字は 何国の八丁字な ヤンヤーハーハ 里こえて

里こえて おお里こえて ヤンヤーハーハ

この湯男湯雛は 何国の人よ ヤンヤーハーハ 里こえて

里こえて おお里こえて ヤンヤーハーハ

この千道八つ橋は 何国の橋とよ ヤンヤーハーハ 里こえて

里こえて おお里こえて ヤンヤーハーハ

この花は 何国の花とよ ヤンヤーハーハ 浦こえて

浦こえて おお浦こえて ヤンヤーハーハ